



大切な子どものワクチン 親から子へと伝える愛情

平成 29 年 3 月 1 日
富山県感染症情報センター

(直 0766-56-5431)
(直 0766-56-8142)

感染症発生動向速報

(平成 29 年第 8 週分・2 月 20 日～2 月 26 日)

《 インフォメーション 》

●子ども予防接種週間

子どもに対する予防接種への関心を高め、接種率の向上を図ることを目的として、今年も 3/1 (水)～3/7 (火) の間、子ども予防接種週間が実施されます。

この間、医療機関の協力により診療時間を延長して予防接種が実施されます。日中忙しくて受診できない方は、この機会を利用して予防接種を受けて下さい。実施医療機関については、県健康課のホームページ「平成 28 年度子ども予防接種週間協力医療機関一覧【予約制】」をご覧ください。なお、診療時間は医療機関によって異なりますので、事前に確認し予約をしてから受診して下さい。

予防接種の中でも麻疹風疹 (MR) ワクチンは特に重要です。麻疹や風疹は感染力が非常に強いいため、ワクチン接種が唯一の予防法になります。平成 28 年度の予防接種法に基づく MR ワクチンは下記の人を対象に行われています。お子さんが対象者であるかどうか、今一度ご確認下さい。



平成 28 年度の麻疹風疹 (MR) ワクチンの定期接種対象者

第 1 期：1 歳児

第 2 期：小学校入学前 1 年間の小児 (H22. 4. 2～H23. 4. 1 生)

また、「とやまっ子子育て応援券」は任意予防接種にも利用できます。(インフルエンザ、おたふくかぜ、B 型肝炎 (定期接種対象者を除く))



《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 4 件 (①第 7 週診断分：40 歳代、男性 ②70 歳代、女性 ③30 歳代、男性 ④70 歳代、女性)

四類感染症 レジオネラ症 1 件 (第 7 週診断分：90 歳代、女性、肺炎型)

五類感染症 アメーバ赤痢 1 件 (60 歳代、男性)

後天性免疫不全症候群 1 件 (第 7 週診断分：20 歳代、男性)

侵襲性肺炎球菌感染症 1 件 (70 歳代、男性)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位 6 疾患		定点医療機関あたりの数		
順位	疾病名	今週	先週	増減
1 位	インフルエンザ	17.88	23.58	↓
2 位	感染性胃腸炎	6.07	6.41	↓
3 位	流行性耳下腺炎	1.76	1.14	↑
4 位	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.45	1.38	↑
5 位	流行性角結膜炎	0.71	0.14	↑
6 位	R S ウイルス感染症	0.66	0.45	↑

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（平成29年第8週 平成29年2月20日～平成29年2月26日）

分類	疾患	今週報告分（第8週）					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核	2		1			3	6	2	6	4	12	30
四類感染症	A型肝炎							1					1
	デング熱											1	1
	レジオネラ症									3		2	5
五類感染症	アメーバ赤痢					1	1					1	1
	ウイルス性肝炎							1					1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										4		4
	後天性免疫不全症候群									1		1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1	1		1		4	6
	梅毒									1			1
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	137 19.57	122 24.40	181 13.92	129 18.43	289 18.06	858 17.88	1,424	1,007	1,916	1,096	2,209	7,652
	RSウイルス感染症		2 0.67			17 1.70	19 0.66	12	16	12	5	170	215
	咽頭結膜熱	2 0.50		6 0.75		6 0.60	14 0.48	3	6	46	18	37	110
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2 0.50		17 2.13	5 1.25	18 1.80	42 1.45	23	10	111	54	106	304
	感染性胃腸炎	36 9.00	25 8.33	31 3.88	21 5.25	63 6.30	176 6.07	369	222	279	209	687	1,766
	水痘				1 0.25	1 0.10	2 0.07		6	11	11	27	55
	手足口病			7 0.88			7 0.24			47	5		52
	伝染性紅斑										1	3	4
	突発性発しん	1 0.25		2 0.25		1 0.10	4 0.14	9	3	22	8	17	59
	百日咳									2			2
	ヘルパンギーナ									4	2		6
	流行性耳下腺炎	5 1.25	3 1.00	10 1.25	9 2.25	24 2.40	51 1.76	29	9	168	36	118	360
	急性出血性結膜炎									1			1
	流行性角結膜炎			5 2.50			5 0.71		1	55	1		57
	細菌性髄膜炎							1					1
	マイコプラズマ肺炎	1 1.00		1 1.00			2 0.40	5	2	4	5	4	20
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1 1.00		1 1.00	1 1.00		3 0.60	2		1	3	3	9
	インフルエンザによる入院患者（*）	3		6	3	7	19	36	2	25	58	74	195



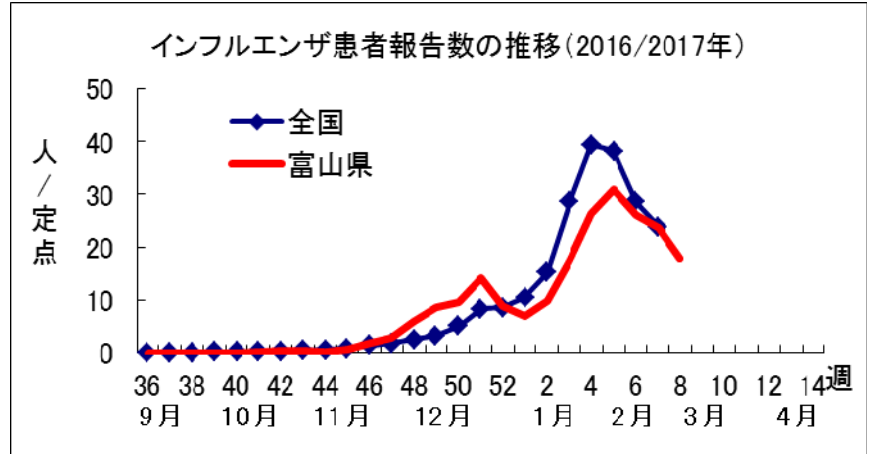
● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第8週 (2/20~2/26) : 富山県 17.88 人/定点

新川 HC (19.57)、中部 HC (24.40)、高岡 HC (13.92)、砺波 HC (18.43)、富山市 HC (18.06)

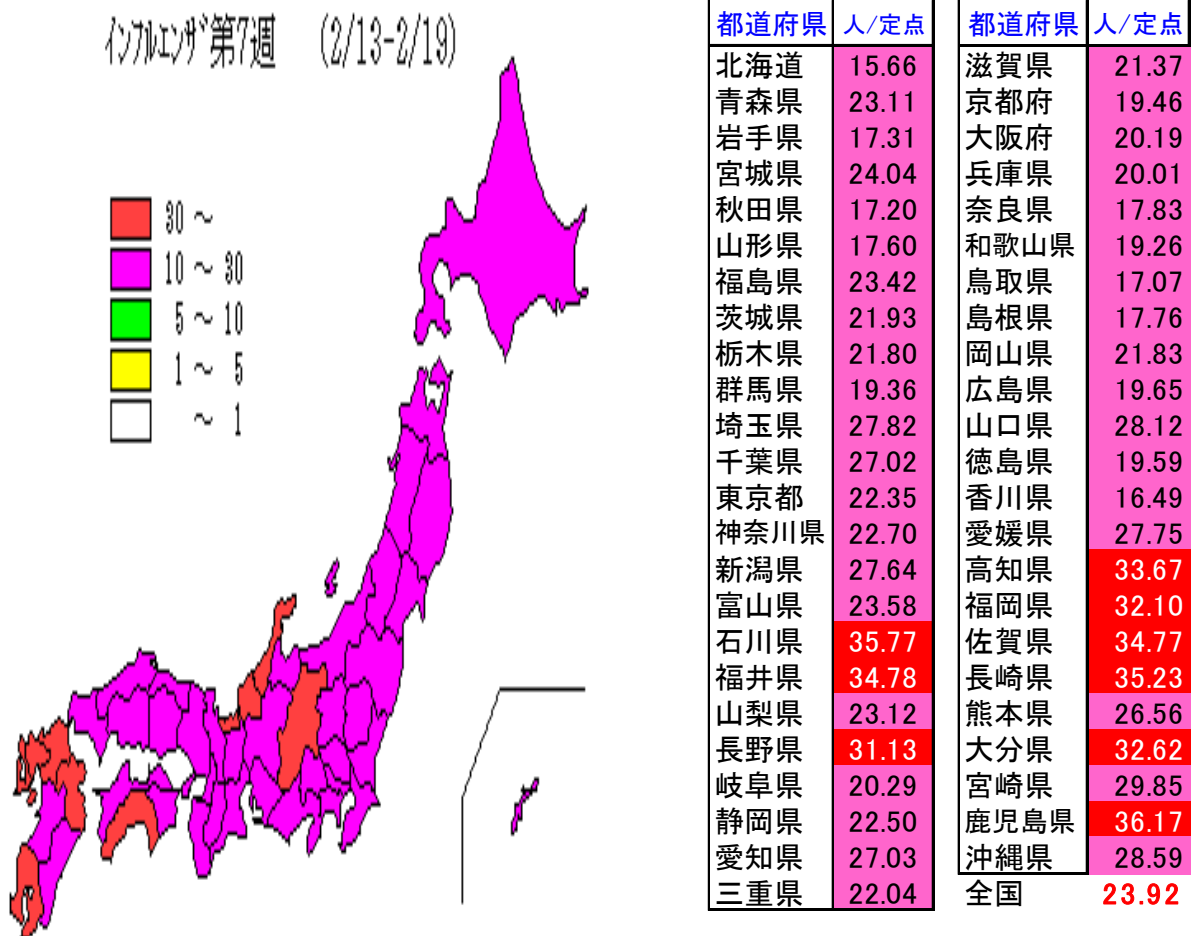
第5週に県内は警報レベルの目安である定点医療機関あたり 30 人を超えました。

3 週続けて前週より減少していますが、しばらくは報告数の多い状態が続くと思われます。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第7週 (2/13~2/19)

全国の患者報告数は、定点あたり 23.92 人となり、前週の定点あたり 28.57 人より減少しました。42 都道府県で前週より報告数が減少しています。



過去の病気ではありません

梅毒が増えています



***** コーヒーブレイク *****

梅毒

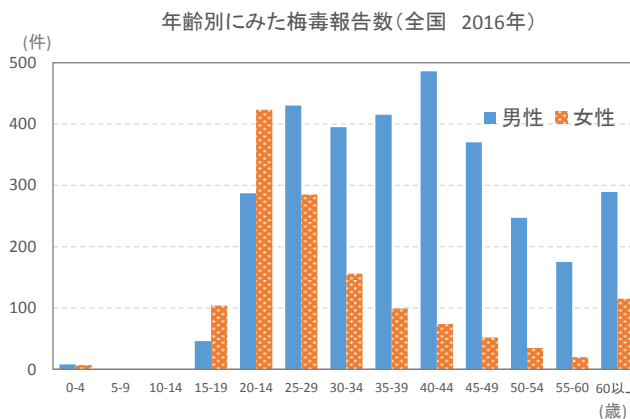
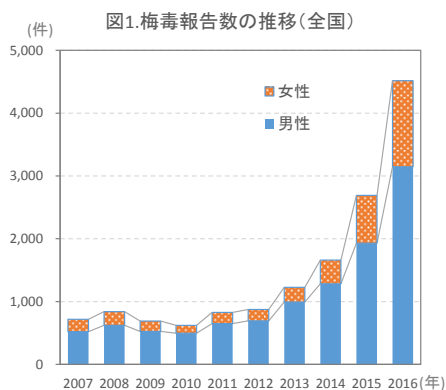
近年、梅毒の患者報告数が急増しています。2016年は全国で4,518件*、前年と比較して1.7倍（男性1.6倍、女性1.8倍）となりました。2010年以降、報告数は増加を続けており、特に女性の増加が目立ちます。年齢別にみると女性は20歳代、男性は20歳代から40歳代の報告が多くなっています（図1、2）。富山県においても漸増傾向がみられ、2016年の報告数は12件でした。

梅毒は性的な接触などによってうつるSTI（性感染症）です。2010～2013年頃は男性同性間性的接触による増加傾向がみられていましたが、2014年以降は男女の異性間性的接触による増加傾向が続いていると報告されています。梅毒は「梅毒トレポネーマ」という病原体が感染することによって発症します。感染後約3週間の潜伏期を経て、感染部位にしこりができることがあります。痛みがないことも多く、治療をしなくても数週間で軽快します（第Ⅰ期）。3か月以上を経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、全身に赤い発疹（バラ疹）やリンパ節の腫脹などが出現することがあります（第Ⅱ期）。治療をしなくても数週間以内に消えることや、再発を繰り返すこともあります。感染後、数年を経過すると血管や神経の障害等、全身に多様な症状をきたすことがあります。（**晩期顕性梅毒**）。また、妊娠している人が感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡、奇形が起こることがあります（**先天梅毒**）。一般的には抗菌薬の内服で治療することができます。

梅毒をはじめとするSTIは早期発見・治療が大切です。一度治っても再び感染することがあります。感染していることがわかった場合は、周囲で感染の可能性のある方（パートナー等）と一緒に検査を行い、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。また、コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができます。（細菌部 範本）



性感染症に関する啓発ポスター（厚生労働省）



*:2016年は暫定値(2017年1月17日現在)

参考：感染症発生動向調査事業年報

感染症発生動向調査（IDWR）2016年第12号，第48号：注目すべき感染症梅毒に関するQ&A（厚生労働省HP）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html